

## 鎌ヶ谷市生涯学習審議会 平成28年度第2回会議 会議録

◎ 開催日時 平成28年11月16日(水) 午前9時30分～11時30分

◎ 会場 鎌ヶ谷市生涯学習推進センター 2階 会議室1

◎ 出席委員 14名

今村濃太会長、谷口隆子副会長、秋谷久美委員、石田友和委員、河合峰夫委員、清松檜男委員、佐藤克己委員、篠田繁委員、篠原勝委員、高橋里香委員、竹内春美委員、古川知己委員、細井和美委員、御代川泰久委員

◎ 欠席委員 5名

石川宏貴委員、伊藤真由美委員、川村めぐみ委員、田中順子委員、行森光子委員

※鎌ヶ谷市生涯学習審議会の委員定数19名に対し、出席委員14名であり会議は成立した。

◎ 事務局 7名

青木生涯学習推進課長、大関生涯学習推進課主幹、三石文化・スポーツ課主幹、渡邊企画調整係長、吉野生涯学習推進係長、関企画調整係主事、田中企画調整係主事

◎ 傍聴者 0名

1 開会 (谷口副会長)

2 会長あいさつ

3 会議録署名人の選出

50音順に2名選出する慣例により、篠田委員、篠原委員に決定。

4 協議事項

①平成29年度社会教育関係団体に対する補助金交付について  
～事務局より資料に基づき説明～

【質疑応答】

委員： 2番の鎌ヶ谷市「小さな親切」運動の会はどのような組織構造ですか。

事務局： 全国単位でこの会の本部、その下部に千葉県の組織、市町村に支部があ

り、市内各小中学校において活動をしていただいています。

委員： 会長をトップとしたピラミッド型の組織ですか。

事務局： はい、そうです。

委員： 5番の鎌ヶ谷市芸術文化協会について、団体数が62団体、会員が1,350人ということで、会員数の割に金額が少ないように思いますが、いかがですか。

事務局： 補助金の考え方として、会の運営を助け、いずれは団体が自立してくれることを目的としており、それを念頭に団体には頑張ってもらうようお願いをしているところです。

委員： 補助金の交付は、こういった基準で交付されていますか。また、要望額が多かった場合は査定しますか。

事務局： 団体から提出される要望書の要望金額に対して交付しますが、補助金全体の上限が決まっており、また、資料に掲載の事業をすべてこの補助金で運営するのは難しいでしょうから、補助金は一部の事業で活用し実施していただいている状況です。

委員： 演奏会は来場者から集金しているのですか。

事務局： 大きくは芸術文化協会の芸術祭、鎌ヶ谷フィルハーモニックオーケストラ、鎌ヶ谷吹奏楽団、合唱連盟の4つの核で動いています。各団体とも、補助金の倍くらいの事業費を負担し開催していただいています。鎌ヶ谷フィルハーモニックオーケストラ、鎌ヶ谷吹奏楽団の両団体とも設立のコンセプトが無料で市民に楽しんでもらう、ということで、そのコンセプトの下に事業を進めていると聞いています。

委員： 会員数が62団体と多いですが、資料のサークル・団体、学校施設利用団体一覧に掲載されている団体が入っているのですか。

事務局： 詳しいすり合わせをしていません。公民館で活動されている団体があるかと思いますが、主には芸術文化協会の活動をされている団体と認識しています。

## ②公民館のあり方について

～事務局より資料に基づき説明～

- ・第1回審議会の振り返り
- ・第1回審議会における意見の分類について
- ・発表 ～グループワーク～

宿題「あなたの考える、第3次鎌ヶ谷市生涯学習推進基本計画に宿るキーワード、また興味を惹きつけられる言葉を教えてください。」についての発表及び意見交換

## ◎Aグループ

- ・公民館は地域の中心で、生涯学習のための場所である。
- ・公民館を利用されていない市民へのアプローチが重要だと感じている。市民の思いをくみ取り行政に活かすべき。
- ・他県ではこのような会議を公民館で行うことで、施設の現状の確認や館長とのコミュニケーションを取っている。
- ・東部学習センターを利用しているが、地域の絆が薄れていると感じる。地域とのつながりや会話が重要であり、個人的には旅行のお土産を近所に配り、話題にしたり、バーベキューをしている。
- ・生涯学習への参加、自己を高めるための取り組み、これらを活かす場所づくりについて考えるとき、生涯学習社会の最終的なイメージや形が必要だと考える。
- ・生まれてから亡くなるまでいつ学んでも遅くはない。その思いを実行するために広く開かれた活動場所が必要であり、それも公民館の役割である。行政職員がこの考えを理解し、運営していくことが大切。
- ・公民館のフル稼働は不可能であるし、人を育てる場と考える。
- ・新しい施設、魅力ある外観などのポイントがないと、公民館に若者は来ない。例えば、公民館の1館を「青少年育成センター」と名称を変えるなど、特化した機能や分野を持たせ、差別化を図ってはいかがか。
- ・公民館は、人間として豊かになるための活動をするモノを見つける場所として必要である。
- ・今と昔では公民館の雰囲気が違う。このままだと単なる貸館になってしまう。
- ・現状の公民館の対応では良くないと思うが、どう改善をしたら良いのか…難しい。
- ・公民館の名前を出し、何があり、何をしているのか分かるようにしなければならない。
- ・稼働率とは関係なく、公民館には良い講座があるので、切り捨てないでほしい。
- ・幼少の時から創造性が豊かな子どもを育てることは、人間の未来を作る。これには、地域の核となる公民館が重要。
- ・公民館は子どもを育てる地域の核。
- ・静かな場所で勉強するのも良いが、まなびいの1階のスペースの様に、数人で雑談しながら学ぶことも重要である。
- ・子どもから高齢者まで同じ空間で互いに迷惑をかけない範囲で活動できる場所が必要。
- ・急遽の打合せや学生の集まり、勉強をする場所として、フリースペースは必要。きらり鎌ヶ谷市民会館の展示スペースをフリースペースにして開放することはできないだろうか。
- ・家庭・学校・社会教育を経て巣立っていく。人としていろいろな体験が必要で

- あり、公民館を利用した青少年活動で創造性を学べる機会があると良い。
- ・息子が学生の頃、学校の先生からパソコンクラブに誘われ、今ではそれを職業としている。楽しい部活や活動は、まなびいで活動しているパソコン教室の様に将来的に社会へ還元できる。
  - ・パソコン教室は対象を大人に限定しているので、子どもまで拡大するべき。
  - ・今年、第二中学校の生徒30人くらいと避難所体験を行った。生徒は大変喜んでおり、何かあった場合に実際に行動できるのは学生であると感じた。
  - ・日中は家に高齢者しかおらず、何かあった時に力になるのは学生である。
  - ・高齢者は、知識・経験を備えており、学生は体力があり行動してくれる。中学生なりの地域とのつながりを構築しておいたほうが良い。
  - ・学生の8割から9割の学生が部活動をし、土日もイベントがあり公民館へ行く時間や活動する機会が少ない。
  - ・公民館を宣伝・PRする場所があっても良い。
  - ・先々のイベントが把握できるのであれば、公民館周辺の学校に活動のチラシを配布しても良いのではないか。
  - ・チラシも良いが、各公民館でホームページを立ち上げ、生徒がいつでも公民館の活動を確認できる仕組みも良い。
  - ・市営陸上競技場（福太郎スタジアム）の稼働率が悪いように感じる。中学生がスタジアムの周りを走っているのをよく見かけるが、体育館を利用させてあげるなど、予約の優先順位をつけてはどうか。
  - ・青少年犯罪の早期発見への課題も気になる。
  - ・社会環境の変化が激しすぎて、これまでのままでは対応できてないと思う。
  - ・学習の必要性が変わってきた。
  - ・想像できないような犯罪が起きている。
  - ・家庭教育、学校教育、社会教育の融合の重要性。
  - ・「本質的」なものが大切。
  - ・人と人、それぞれに違いがあって、それがいい。

#### ◎Bグループ

- ・ふれあいや助け合いが重要だと考えているが、抽象的なため具体的にどう実現していくのか考えていきたい。
- ・生涯学習推進目標である「さわやかにふれあい」のふれあいはどのような部分を指しているのか。学校と地域住民、高齢者と学生など対象は色々あるが、こちらが作り上げてよろしいのか。

➡事務局：ふれあうというのは、それぞれ個人の考えるふれあいです。大きな部分でのふれあいや密なふれあいなどがあるかと思いますが、そこも含めザックバランなご意見をいただき、公民館の運営に反

映していきたいと思います。

- ふれあい、助け合いとは心地よい言葉。人は一人では生きてはいけないので、ふれあわなければならない。
- 今の公民館は、団体でなければ利用できず、総合的な人と人との出会いやふれあいが無視されているように感じる。ふらっと気軽に利用できる仕組みが必要だと考える。
- 趣味などの目的を深めるためだけに集中した団体利用が多いように思う。他の団体と交流を持つなど、目的を深めること以外の横のつながりやふれあいといったプラスアルファの部分にまで及んでいない。
- 公民館は、貸館のイメージ。たくさんの団体が利用しているので、もっと団体の横のつながりができるような場の提供を公民館に作ってほしい。
- 団体利用だけの公民館ではなく、いつでも誰でも自由に使える空間が必要。その中で自分の興味をそそられることをしている人に話しかけたり、教えてもらったりすることで、知らない人ともふれあいや交流が持てる。椅子やテーブルを置き、フリーに利用させてはいかがか。
- 趣味を深めることも素敵なことである。ただ、団体の情報がもっとオープンになって、色々な方が顔を出せるようになってほしい。
- 公民館でどのような団体が活動しているのか、もっと伝わらなければ連携ができない。
- スポーツの団体も、ふれあい・助け合いを根本としている。各競技で大会を開催しているため、色々な団体と連携ができており、その面ではオープンだと考える。
- 例えば公民館で将棋の大会をする時に、将棋の団体に協力要請するなど、各団体の活用を図ってはいかがか。
- 鎌ヶ谷市に住んでいる人を育てないとまちが良くなならない。公民館という場所は重要で基点にしながら人材育成をすべき。
- 本来の公民館の役割である、教育や豊かさとは離れた、貸館のような利用になっていることに違和感を覚える。
- 全国的に見て、各中学校区に公民館があるのは素晴らしい。
- 公民館には、ホールや図書館の分館、調理室、東部学習センターに限っては体を動かせる場所があるが、人を呼び込むためにどんな施設をいれるのが重要。
- 今回の会議資料で、公民館の場所や事業などたくさんのがわかったが、市民への情報提供は広報かまがやによるところが大きい。費用対効果の部分はあるが、例えば資料を全戸配布すると、興味がなかった方もそれをきっかけに興味があくかもしれない。もっと市民へ情報を届けてほしい。
- 公民館事業は、参加人数が多ければ成功、少なければ失敗という、数の基準はそぐわない。

- ・特に若者世代や子育て世帯、それぞれに対応したイベントでアドバイスや、悩みを解消できるような場所の提供をするなど、イベントで人を寄せることが必要。
- ・学生に関しては、公民館に勉強できる場所、長時間居られるスペースがあると良い。
- ・学生を持つ親世代は、日々の生活で時間がなく公民館を利用したり、イベントに参加しようとする、何かを犠牲にしなければならない。この課題に向き合わなければ、これまでの公民館と変わらない。
- ・核家族化により、他世代とのつながりを持つことを拒絶しているように感じる。
- ・市内には様々な能力や経験を持っている方が埋もれているはずである。このような方々の参加や協力を得て、不登校生徒や共働き世帯など、困っていることの解決を図っていくことが必要。
- ・船橋市のある地区では、「地域の子どもは地域で育てる」というコンセプトの下で、その地域に関わる様々な団体（自治会・学校・社会福祉協議会・児童ホーム・民生委員・安全ボランティアなど）の幹部による話し合いの場があり、他の団体との共同事業の話が出たり、生徒の発表の場を提供してもらえた。そこで横のつながりができ、結果的に自然にふれあい、強い地域力が維持できている。

公民館は、「ふれあいの場」でもあるし「ふれあいを作るための場」として活用することも考えられる。公民館ごとにそういった場を作ってはいかがか。

- ・地域の問題をまるごと考えていけるような、知恵を出し合えるような、協議会的な場が必要。
- ・昔は地域のお祭りなどには必ず参加しなければならないような、地域の結束力があつた。地域のつながりを高めていくことも重要。
- ・学校と地域の連携は、お互いに支え支えられといった、双方にとって有益なことである。それぞれ企画事業があると思うが、その思いが届けたいところに伝わっていないような感じを受ける。よってコーディネーターの活用も行っていくべき。
- ・生徒が地域の活動に参加するには、部活動や大会、受験などで限られてはくるが、異年齢と交流することで気持ちが向上し、自分もこうならなければならないという意識の変化がある。
- ・地域で子どもを育てることは大切であり、地域の方も「子どもを地域で育てたい」という思いは強いはずである。問題を学校だけで解決させるのではなく、地域の核となる公民館を活かせないものか。
- ・小学校などでは学校と地域と家庭とで、地域学習を行っているが、活かしきれていないように感じる。学校も公民館も何もやっていないわけではない。むしろ色々と実施している。それがつながっていないので、既存のものを上手く活

用できるよう見直すことが必要。

- ・今行っているイベント等のPRをもっと工夫すべき。

以上のご意見は、公民館の館長会議において報告し、公民館の管理・運営・事業計画及び方法の検討材料として活用後、第3回生涯学習審議会にて報告いたします。

## 5 報告事項

- ・審議会出席状況について

今村会長より東葛飾地区社会教育連絡協議会研修会について報告。

～質問なし～

## 6 その他

- ・生涯学習推進課から、今村会長が東葛飾地区社会教育連絡協議会の表彰を受賞したことを報告。
- ・生涯学習推進課から、第3回生涯学習審議会日程調整アンケートについて報告。
- ・生涯学習推進課から、東葛飾地区社会教育委員・社会教育関係者合同研修会について報告。

## 7 閉会（谷口副会長）

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違のないことを証するために次に署名する。

平成28年12月22日

氏名 篠田 繁

氏名 篠原 勝